RECYCLE RONDO

集めて使うリサイクル

協会報

秋号

2009.11 Vol.35

特定非営利活動法人／集めて使うリサイクル協会

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1-3-4 小池高麗橋ビル TEL.06-6209-7155 FAX.06-6209-6685 〔東京連絡事務所〕TEL.03-3360-1301 FAX.03-3360-7090

第１回なにわ元気アップフォーラム

「市民協働で進めるごみ減量」

大阪市等との共催により 10 月 31 日に開催

「第１回なにわ元気アップフォーラム　市民協働で進めるごみ減量～ごみゼロリーダー（推進員）の活動事例から～」が、10 月 31 日に大阪市中央区の中央会館ホールで開催されました。集めて使うリサイクル協会が2009年度地球環境基金助成事業として、廃棄物減量等推進員制度の活性化を考えるシンポジウムを開催することになり、大阪市に協働を呼びかけたことから、ＮＰＯ法人ごみゼロネット大阪も含めた三者による共同開催が実現したものです。当日は 180 席が足りなくなるほどの盛況で、大阪市の平松市長からは「紙のリサイクルを進めてごみを減らす」という力強い宣言が発せられるなど、有意義な催しとなりました。

「廃棄物減量等推進員制度に関する全国アンケート調査結果」の報告の後シンポジウムに入り、コーディネーターの森住明弘氏（ＮＰＯ法人大阪ごみを考える会理事長）からパネリストの紹介がありました。お招きしたパネリストは次の４名です。

平松　邦夫氏（大阪市長）
西川　順一氏（鹿児島県志布志市環境政策室長）
中村　優理子氏（愛媛県松山市清掃課主事）
真庭　紀之氏（兵庫県篠山市保健衛生協議会副会長）

篠山市では、明治時代につくられた衛生委員制度を引き継ぐ形で、自治会ごとに任命された衛生委員兼環境美化推進員が保健衛生協議会を組織し、活動を行っています。主な活動はごみの分別指導、ごみステーションの管理、市内一斉クリーン作戦、環境美化パトロールなどです。真庭氏は、「プラスチック製容器包装の分別徹底が現在の大きな課題」と話しました。

志布志市は焼却施設を持っておらず、資源化できるもの以外は埋立するしかないため、28 分別での徹底した資源化により極力埋立ごみを少なくする努力を続けてきた結果、今では全国の市の中でリサイクル率が１位となっています。きめ細かい分別を可能にしているのが、全戸加入の衛生自治会という制度であり、ごみ分別だけでなくさまざまな環境の取り組みが展開されています。西川氏は、「ごみを減らし物を大切にする心が、人を大切にする心にもつながっていく」と強調しました。

松山市は、廃棄物減量等推進員のほか、協力員という制度もあり、合わせて約 500 人の市民が地域のごみ減量リーダーとして活動しています。排出状況の悪いステーションについては、推進員・協力員が中心となって粘り強く住民の指導・啓発を行い、他の模範となるような状況にまで改善された事例も数多くあります。現在、地域コミュニティの自立を目指してまちづくり協議会の設置が進められており、「将来的にはまちづくり協議会と連携し、まちづくり全体の中で推進員・協力員の活動を位置づけていくことが必要」（中村氏）とのことです。

大阪市では、2007 年のごみ量 148 万トンを 2015 年までに 110 万トンまで減らす目標を掲げています。平松市長は、この目標実現のために「集団資源回収などによって紙類のリサイクルを進めることが大切」と指摘し、「ごみ減量のため、みんなで一緒にやりまひょ」と市民に呼びかけました。会場の市民からの質問にも丁寧に答える市長の姿が印象的でした。

特定非営利活動法人集めて使うリサイクル協会

２００９年度　通常総会＆情報交流会

5月29日、大阪市のOMMビル地下ギャラリーにおいて、2009年度通常総会が出席・委任状合わせて37名の参加によって開催されました。

総会の後に開催された情報交流会の様子。

2008年度事業概要については、協会が事務局を担当する「酒パックリサイクル促進協議会」で酒造メーカーが主体的に取り組むリサイクル活動第1弾として、灘伏見地区酒造メーカーの工場損紙リサイクルシステムが動き出したことや、生協など量販店店頭での「アルミ付紙パック」の回収拠点が拡大して来たことなどが報告されました。

また2009年度の事業計画としては、さらなる回収拠点拡大を障害者作業所の仕事づくりと結びながら展開していくことなどが掲げられました。これらの事業概要・事業計画については、2008年度決算および2009年度予算とあわせて承認されました。

同時に、役員会で選任された理事（大塚豐・北村貴則・塩瀬宣行・高田嘉敬・西田克彦・和田志津子）の報告があり、監事として磯村佳宏・森住明弘の両名を選任して終了しました。

＜集めて使うリサイクル協会　現況データ＞ 2009年5月現在

企業正会員	42社	企業賛助会員	5社。
個人正会員	10名	個人賛助会員	12名

ぽらむ交流・研究センターが中心となって岐阜県内に設置を進めている酒パック回収ボックス。

引き続き開催された情報交流会では、古紙ジャーナル社代表取締役本願静雄氏の「最近の古紙事情について」お話をお伺いし、コープぎふCSR推進担当部長の高橋勤氏からは、「コープぎふの環境と福祉の取り組み」と題して障害者作業所と一緒に進めていくアルミ付紙パックの回収の取り組みをご報告いただきました。

また協会と協働してリサイクル活動を推進している「障害者作業所の現状と取り組み」について、社会就労センター新生会作業所の高田嘉敬所長からお話しいただきました。さらに具体的に各地で展開している作業所の活動実態を、ぽらむ交流・研究センター（岐阜県美濃市）代表の平田哲也氏、紙好き交流センター（大阪府交野市）代表の奥上陽一氏、みんなの労働文化センター（兵庫県尼崎市）の永岡美紀氏からご報告いただきました。

［牛乳パック再利用マーク規程の一部改定について］

牛乳パック再利用マーク（パックマーク）は、牛乳パック再利用運動の中で市民が回収した牛乳パックが、どんな商品に再生されているのかを市民に知ってもらい、お買い物の目印にしてもらう目的で、1992年の「牛乳パックの再利用を考える全国大会」（北九州市）において制定されました。

また、牛乳パックを原料として受け入れている中小家庭紙メーカーにとっては、大手メーカーのバージンパルプ商品が市場を席巻するなかで、再生紙商品が市民の支持を得るための貴重な武器となるとの思いから、再生紙のトイレットペーパーを中心に表示がスタートしました。

環境意識の高まりの中で、再生紙に対する市民の抵抗感は徐々に少なくなり、同時にパックマークの認知度は、行政ほか各方面の広報、学校での環境教育、身近に接する家庭紙などにより急速に浸透して行きました。さらに板紙製品にパックマークがつくようになり商品アイテムは一挙に拡大してきましたが、まだまだ市民が目にする

パックマーク商品は限られていると言わざるをえません。

そこで、板紙が生活の中で最も活用されているパッケージにマーク表示を付けやすくするため、17年ぶりに規約を改定いたしました。従来は最終商品にパックマークを付ける場合、パッケージであってもその商品のメーカーがマーク使用者となり使用料を支払う取り決めでしたが、パッケージ制作会社がマーク使用権者であれば最終商品メーカーに負担が及ばないよう変更いたしました。

このことによって、各メーカーはパッケージにパックマークが付けやすくなり、同時にパッケージ制作会社のマーク使用権に意味を持たせることに繋がり、今後市場におけるパックマークの登場場面拡大に期待が持てます。

（2009年7月末現在パックマーク企業　認定工場11社　家庭紙9社　板紙その他14社）

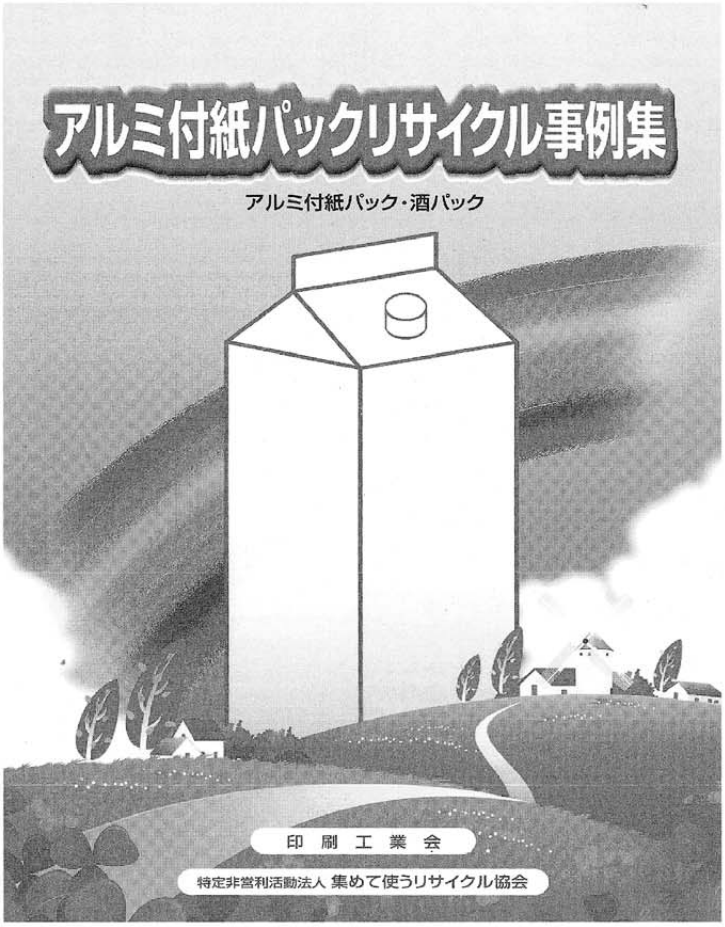
「アルミ付紙パックリサイクル事例集」第II集を発行します

集めて使うリサイクル協会と印刷工業会は、1999年から共同してアルミ付飲料用紙容器リサイクルプロジェクトを推進してきました。このプロジェクトでは、アルミ付紙パックが製紙原料としてリサイクルできるという情報発信と同時に、各地に回収拠点を作り、アルミ付紙パックの受け入れ製紙会社へ回収システムをつなぐことが活動の柱になりました。

最初は街のお酒屋さんを「エコ酒屋」として組織し、アルミ付紙パックの拠点回収をスタートさせました。その後、回収拠点は自治体や量販店などにも徐々に広がっています。

またこのプロジェクトの中で特筆されるのは、障害者作業所が大きな役割を果たしていることです。回収拠点づくり、回収作業、再生品づくりと、アルミ付紙パックリサイクル推進の一翼を積極的に担ってきました。

今回発行する「アルミ付紙パックリサイクル事例集」は、2005年に発行した第I集で紹介できなかった事例を中心として、10年間で作り上げてきた多様化する回収拠点、回収ルートを紹介するものです。



[アルミ付紙パックリサイクルプロジェクトの歩み]

1998年　紙パックメーカーの産業古紙（アルミ付）処理ルート調査　印刷工業会委託事業「ALMprj.」スタート

ALMprj.'99　酒造メーカー工場損紙調査。サイクル実践事例収集

ALMprj.'00　酒販店用回収ボックス開発。酒販店での回収実験

ALMprj.'01　山梨県に中間処理場創出・自治体アプローチ（船橋市・小平市）

ALMprj.'02　「エコ酒屋」を恒常的回収拠点に。熊本、宮崎、岐阜　計21店舗

ALMprj.'03　酒パックリサイクリング問題研究会開催。滋賀県に中間処理場

ALMprj.'04　アルミ付紙パックボトラー調査。エコ酒屋：1道1都2府20県　計131店舗

ALMprj.'05　酒パックリサイクルキャンペーン。5地域の小売酒販組合で一斉に実施

ALMprj.'06　阪神間朝日新聞販売店回収スタート。エコ酒屋：1道1都2府27県　計301店舗

ALMprj.'07　酒パックリサイクル促進協議会結成。スーパー店頭、居酒屋チェーン等の拠点誕生

ALMprj.'08　灘・伏見地区酒パックリサイクルシステム始動。生協、酒量販店、居酒屋など40店舗以上で回収スタート

牛乳パック再利用マーク付き商品紹介

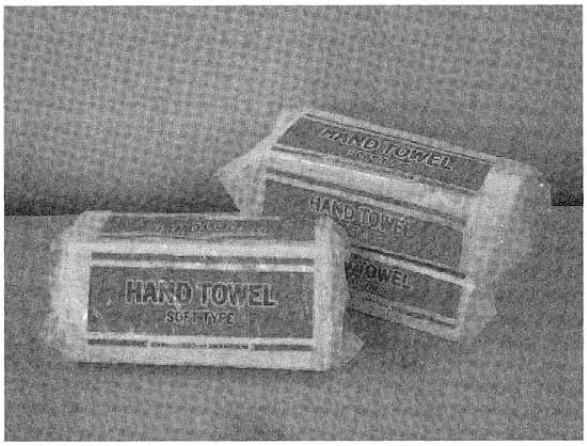
①封筒・便箋・名刺用紙（五十川製紙株式会社）

五十川製紙株式会社は、美濃和紙の伝統を持つ岐阜県美濃市にある、1930 年創業の機械漉き和紙メーカーです。美濃障子紙（業務用）の国内シェアは６割を超えているとか。

同社は以前から、障害者の仕事づくりネットワーク「リサイクルロンドぎふ」の中心となっている「ぽらむ交流・研究センター」と連携しながら、牛乳パックを原料として活用した製品づくりに取り組んできました。特筆されるのは、牛乳パックの表面にラミネートされたポリエチレンフィルムを細かく裁断し、これを紙の中に漉き込む技術を開発したことです。細かく破砕されたポリエチレンフィルムは、カラフルな模様となって機械漉き和紙の表面に散らばり、独特の風合いを醸し出しています。もちろん、紙の原料自体も牛乳パックなどの古紙100％です。

この「牛乳パックまるごと再生原料使用」の紙からつくられた製品には、封筒（長形３号 20 枚入り、長形４号 20 枚入り）、便箋（縦罫 30 枚組、横罫 30 枚組）、名刺用紙（100 枚分）があります。名刺用紙は、Ａ４の用紙にミシン目が入っており、家庭のプリンターで簡単に印刷することができます。

②ハンドタオル（マスコー製紙株式会社）



マスコー製紙株式会社は、製紙の町として有名な静岡県富士宮市にある再生紙メーカーで、創立は 1969 年。早くから市民が回収した牛乳パックの受け皿となり、牛乳パックリサイクル運動に積極的に協力してきた企業の一つです。芯なしトイレットペーパーの製造技術を有するほか、ムーミンやピーターラビットのキャラクターをあしらったティッシュペーパーなど、ユニークな製品づくりでも知られています。2000 年に ISO14001、2009 年に ISO9001 の認証を取得しています。

マスコー製紙ではこのたび、牛乳パックなどの古紙を原料とするハンドタオルを発売しました。２枚重ね 200 組（400 枚）入で、次のような商品特徴があります。

・ピロー包装なので、使う場所を選びません。
・業務用で使用されるお客様には特に好評！　　・インフルエンザ対策にも最適。

会員募集中！　入会金は不要です。循環型社会構築を目指す私たちの仲間になってください！

会員区分		年会費（非課税）
団体	正会員	６０，０００円
	賛助会員	１０，０００円
個人	正会員	６，０００円
	賛助会員	１，０００円

●「協会報」では、会員企業各社の環境活動や環境保全型商品の紹介を行っています。どんどん情報をお寄せください。

E メール info@r-kyokai.org　HP http://www.r-kyokai.org/